

囊胞線維症 有病者数全国一次調査用紙
記載医師御氏名

記載年月日：2000年 月 日

囊胞線維症	1. なし	2. 過去1年間		3. 過去10年間	
		男	例	男	例
		女	例	女	例

記入上の注意事項

1. 貴診療科における上記疾患の患者について、過去1年間（1999年1月1日～1999年12月31日）ならびに過去10年間（1990年1月1日～1999年12月31日、過去1年間と重複する場合も再掲）の数をご記入下さい。
2. 全国有病患者数の推計を行いますので、該当患者のない場合でも「1. なし」に○をつけ、ご返送下さい。
3. 後日、各症例について第二次調査を行いますのでご協力下さい。
4. ご住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いします。

2000年2月末日までにご返送いただければ幸いです

当該診療科部長殿

2000. 業. 依2
2000年3月

厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）
難治性腭疾患に関する調査研究班

主任研究者 小川 清雄（熊本大学医学部第二外科）
調査担当 衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学小児科）
山城 雄一郎（順天堂大学医学部小児科）

拝啓

貴院には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日、厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）難治性腭疾患に関する調査研究班では、厚生省からの要請を受け、わが国における囊胞線維症の実態を把握するために全国疫学調査のご依頼を致しましたが、未だご回答をいただいております。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、できる限り正確な調査をいたしたく、重ねて同封の葉書に過去1年間（1999年1月1日～1999年12月31日）および過去10年間（1990年1月1日～1999年12月31日、過去1年間と重複する場合も再掲）の貴診療科における該当疾患患者数（新患、再来を含む）をご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、該当患者がない場合も、患者数推計のために「1. なし」に○をつけ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

該当患者ありの場合には、後日個人票を送らせていただきますのであわせてご協力くださいますようお願い申し上げます。

この件につきましてご不明の点がございましたら下記までお問い合わせください。また、本状と行き違いにご回答をいただいている場合には、失礼をお許しください。何卒、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

囊胞線維症の全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部予防医学教室

TEL 052-744-2132

FAX 052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ：〒860-8556 熊本市本庄1-1-1

熊本大学医学部第二外科

広田昌彦

TEL 096-373-5210

FAX 096-371-4378

様式 II - 1

当診療科部長殿

2000. 陽. 疫. 1
2000年1月

厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業)

呼吸不全に関する調査研究班

栗山 喬之

事務局

吳 浩一郎

特定疾患の疫学に関する研究班

稲葉 裕

(順天堂大学医学部衛生学)

全国疫学調査担当

川村 孝

(京都大学保健管理センター)

拝啓

初春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業) 呼吸不全に関する調査研究班では、厚生省からの要請を受け、特定疾患の疫学に関する研究班との共同研究により、慢性閉塞性肺疾患 (慢性肺気腫、慢性気管支炎、混合型) について、全国疫学調査を実施することになりました。

つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮でございますが、同封の業書に過去1年間 (1999年1月1日～1999年12月31日) の貴診療科における該当疾患患者数 (新患、再来を含む) をご記入の上、2000年2月末日までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、該当患者がない場合も、患者数推計のために「1.なし」に○をつけ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

今回の調査では、呼吸不全に関する調査研究班より特別に依頼を差し上げました施設でのみ二次調査を行います。他の施設へは再度の問い合わせは行ないませんので、よろしくご協力ください。

この件につきましてご不明の点がございましたら下記宛お問い合わせください。

何卒、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査に関する問い合わせ：〒466-8550 名古屋市中区鶴舞町65

名古屋大学医学部予防医学教室気付

特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局

TEL 052-744-2132

FAX 052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ：〒260-8670 千葉市中央区表参1-8-1

千葉大学医学部呼吸器内科

呼吸不全に関する調査研究班

TEL 043-222-7171 (ext. 5472)

FAX 043-226-2176

様式 II - 2

2000. 陽. 疫. 推

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 診断基準

【厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業) 呼吸不全に関する調査研究班】

本調査における慢性閉塞性肺疾患とは、閉塞性換気障害を伴う、慢性肺気腫と慢性気管支炎を含めた包括的な用語である。

(1) 自覚症状

持続的な労作時呼吸困難 (Fletcher-Hugh-Jones分類にてII度以上を目安；平地歩行は同年齢の健康者と同様に可能であるが、坂道・階段で息切れを感じる) を主症状とする。(咳嗽・喀痰・発作性の喘鳴を伴うことがある)

(2) 呼吸機能検査所見

スパイロメトリーにて一秒率 (FEV_{1.0}/FVC) 70% 以下である。

参考：気管支拡張剤 (β₂刺激薬) 吸入による気道閉塞の改善は、一秒量にして300 ml以下 (改善率で前値の20%以下) である

(3) 除外診断

1. 著しい胸膜肥厚、胸郭形成術施行など明かな呼吸機能障害を来すほどの陈旧性肺結核病変を有している肺結核後遺症は除外する。
2. 発作性の呼吸困難を主訴とする症例は、気管支喘息として除外する。
3. びまん性汎細気管支炎の診断が確定している症例は除外する。

本調査は、上記の(1)、(2)を満たし、かつ(3)の除外診断に該当する症例をCOPDとして調査の対象としている。その中には以下のA～Cを含んでいる。

A. 慢性肺気腫

胸部X線撮影所見にて過膨脹 (横隔膜の平底化、胸郭前後径の増大) を呈する。

胸部CT画像が判定に供される場合には、肺野の広範な低吸収領域を認めるものが多い。

B. 慢性気管支炎

咳嗽・喀痰が少なくとも2年以上連続し、1年のうち少なくとも3ヶ月以上、大部分の日に認められる。

C. 混合型

慢性肺気腫症とも慢性気管支炎とも明らかには判別できないもの

慢性閉塞性肺疾患(COPD)有病者数全国一次調査用紙
記載医師御氏名

当該診療科部長殿

厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業)

呼吸不全に関する調査研究班 主任研究者 栗山 喬之
事務局長 巽 浩一郎

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕
(順天堂大学医学部衛生学)

全国疫学調査担当 川村 孝
(京都大学保健管理センター)

2000 補 依 2
2000年3月

記載年月日：2000年 月 日

A. 慢性肺気腫	1. なし	2. あり	男	例、女	例
B. 慢性気管支炎	1. なし	2. あり	男	例、女	例
C. 混合型	1. なし	2. あり	男	例、女	例

記入上の注意事項

- 1999年1年間 (1999年1月1日～1999年12月31日) に貴診療科を受診した上記疾患の患者数についてご記入下さい。のべ受診患者数ではありませんので、同一個人が複数回受診しても、患者数としては一人と数えて下さい。
- 全国有病患者数の推計を行いますので、該当患者のない場合でも「1. なし」に○をつけ、ご返送下さい。
- 特別に依頼を差し上げました施設でのみ二次調査を行ないます。
- ご住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いいたします。

2000年2月末日までにご返送いただければ幸いです。

拝啓

貴院には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日、厚生省からの依頼を受け、わが国における慢性閉塞性肺疾患 (慢性肺気腫、慢性気管支炎、混合型) の実態を把握するため厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業) 「呼吸不全に関する調査研究班」と「特定疾患の疫学に関する研究班」との共同研究による全国疫学調査のご依頼を致しましたが、未だご回答をいただいております。つきましては、ご多忙中のご依頼に恐縮に存じますが、できるだけ回答をいたしておけません。重ねて同封の兼書に過去1年間 (1999年1月1日～1999年12月31日) の貴診療科における該当疾患患者数 (新患、再来を含む) をご記入の上、ご返送くださいようお願い申し上げます。

なお、該当患者がない場合も、患者数推計のために「1. なし」に○をつけ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

今回の調査では、呼吸不全に関する調査研究班より特別に依頼を差し上げました施設でのみ二次調査を行ないます。他の施設へは再度の問い合わせは行ないませんので、よろしくご協力ください。

この件につきましてご不明の点がございましたら下記までお問い合わせください。
また、本状と行き違いにご回答をいただいている場合には、失礼をお許しください。
何卒、ご協力の程よりしくお願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査に関する問い合わせ：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部予防医学教室(気付)

特定疾患の疫学に関する研究班 全国疫学調査事務局

TEL 052-744-2132

FAX 052-744-2971

臨床事項に関する問い合わせ：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部呼吸器内科

呼吸不全に関する調査研究班

TEL 043-222-7171 (ext. 5472)

FAX 043-226-2176

巽 浩一郎

当該診療科部長殿

厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業)

難治性水頭症調査研究班

主任研究者 山崎 麻美

(国立大阪病院 脳神経外科)

疫学調査担当 森竹 浩三

(鳥根医科大学 脳神経外科)

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕

(順天堂大学医学部 衛生学)

拝啓

初春の候、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、厚生科学研究費補助金 (特定疾患対策研究事業) 特定疾患の疫学に関する研究班と難治性水頭症調査研究班の共同研究により、わが国における先天性水頭症の実態を把握するために全国疫学調査を実施することになりました。

つきましては、ご多忙のところ大変恐縮に存じますが、出生前 (胎児期) あるいは出生後1年以内に診断された先天性水頭症患者で、過去1年間 (1999年1月1日～1999年12月31日) の貴診療科における受診患者数 (新規、再来を含む) を同封の葉書にご記入の上、2000年2月末日までにご返送くださいますようお願い申し上げます。

なお、該当患者がない場合も、患者数推計のために「1.なし」に○をつけ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

該当患者ありの場合には、後日個人票を送らせていただきますのであわせてご協力くださいますようお願い申し上げます。

この件につきましてご不明の点がございましたら下記宛お問い合わせください。

何卒、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市中区鶴舞町65

名古屋大学医学部予防医学教室 気付

特定疾患の疫学に関する研究班

TEL 052-744-2132

FAX 052-744-2971

臨床床項に関する問い合わせ：〒693-8501 出雲市塩治町89-1

鳥根医科大学脳神経外科

森竹 浩三 (難治性水頭症調査研究班疫学調査担当)

TEL 0853-20-2245

FAX 0853-21-8954

先天性水頭症 診断基準

水頭症の出生前 (胎児期) 診断にあたっては以下の診断基準A.を、出生後診断にはB.を御参照下さい。

A. 出生前 (胎児期) 診断の場合

下記の1) 必須項目を満たし、かつ2) 除外項目に該当しない症例を胎児期水頭症と診断する。

1) 必須項目

胎児超音波検査で脳室の拡大を認める。

脳室拡大の指標には lateral ventricular width (LVW) / cerebral hemispheric width (HW) を用い、この値が正常上限 (図1) を超えるものを拡大とする。

2) 除外項目

脳萎縮による脳室拡大

3) 補足項目

a. 図1のLVWは正中 echo の中心から正中線に平行して側脳室の外側壁までの最大距離であり、HWはLVWと同じ断面での正中 echo から頭蓋骨内板までの距離である。LVW / HW の正常上限は胎生15週で0.7、20週で0.5、40週で0.35となる。

b. 妊娠後期における除外項目の判定にさいしては、水頭症例では児頭大横径 (biparietal diameter: BPD) が正常域 (図2) の幅かけ部分 平均値±3/2σより低値のことは少ない点を参考とする。

c. 初期絨毛検査 (染色体・DNA)、羊水検査 (染色体分析・DNA) は日本産科婦人科学会実施基準に基づき、母親・家族のインフォームドコンセントを得て行う。

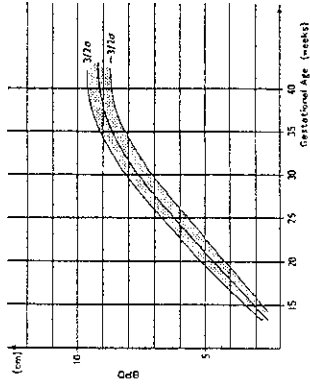
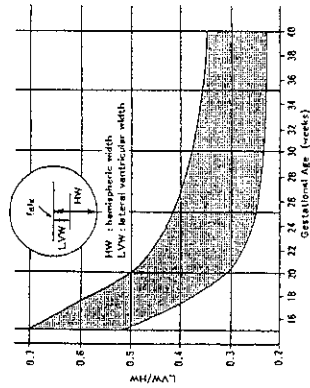


図1 妊娠週齢の推移に伴う側脳室幅/大脳半球幅比の変化 (Johnson 他より改変)

図2 BPDの推移

様式Ⅲ-3

B. 出生後診断の場合

1) 必須項目

- (1) 異常頭圍拡大
- (2) 頭蓋内圧亢進の症候
- (3) 超音波検査、CTまたはMRIによる画像診断で進行性の脳室拡大を認める。
- (4) 病態の原因は出生前にあることが強く示唆される。
- (5) 病態の診断が出生後で、生後1年以内になされた症例に限る。

2) 除外項目

benign enlargement of the subarachnoid spaces in infant や benign subural effusion of infancy などを含む外水頭症

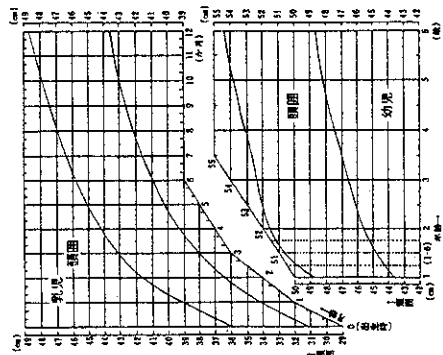
3) 確定診断

上記の必須項目をすべて満たし、かつ除外項目に該当しない症例を出生後に診断された先天性水頭症患者とする。

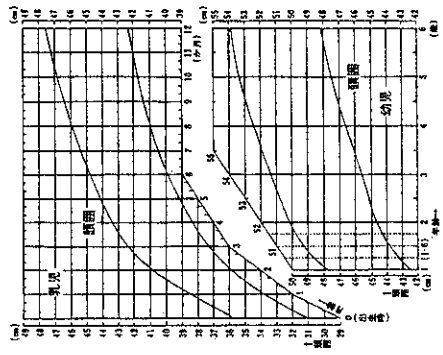
4) 補定項目

- (1) 頭圍測定の際には乳幼児身体発育曲線(平成2年調査)(母子健康手帳より引用 図3)を用いる。
異常の有無の判定には、個々の症例における頭圍の絶対値ないし勾配を考慮する。
- (2) 患児を安静状態で坐位とし、大泉門が緊満していれば頭蓋内圧亢進が強く示唆される。

(左)



(右)



頭圍のグラフ：横の中に94%の子どもの値が入ります。なお、頭圍は左右の厘の中点(眉間)を通るようにして測ったものです。

図3 乳幼児身体発育曲線(平成2年調査)(母子健康手帳より引用)

先天性水頭症 有病者数全国一二次調査用紙 記載医師御氏名

記載年月日：2000年 月 日

出生前(胎児期)に 診断された患者	1. なし	2. あり	計	例
出生後に 診断された患者	1. なし	2. あり	計	例

記入上の注意事項

- 1. 調査対象は出生前(胎児期)あるいは出生後1年以内に診断された先天性水頭症患者で、1999年1年間(1999年1月1日～12月31日)の貴診療科の受診患者とします。
- 2. 全国有病患者数の推計を行いますので、該当患者のない場合でも「1. なし」に○をつけ、ご返送下さい。
- 3. 後日、各症例について第二次調査を行いますので御協力下さい。
- 4. 御住所、貴施設名、貴診療科名に誤りがありましたら、お手数ですがご訂正をお願いします。

2000年2月末日までにご返送いただければ幸いです。

様式Ⅲ-4

2000.水頭症.依2
2000年3月

当該診療科部長殿

厚生科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業)

難治性水頭症調査研究班

主任研究者 山崎 麻美

(国立大阪病院 脳神経外科)

疫学調査担当 森竹 浩三

(鳥根医科大学 脳神経外科)

特定疾患の疫学に関する研究班 主任研究者 稲葉 裕

(順天堂大学医学部 衛生学)

拝啓

貴院には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、過日、厚生省からの依頼を受け、わが国における先天性水頭症の実態を把握するため厚生科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業)「難治性水頭症調査研究班」と「特定疾患の疫学に関する研究班」との共同研究による全国疫学調査のご依頼を致しましたが、未だご回答をいただいております。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮に存じますが、できる限り正確な調査をいたしたく、同封の葉書に出生前(胎児期)あるいは出生後1年以内に診断された先天性水頭症患者で、過去1年間(1999年1月1日～1999年12月31日)の貴診療科における受診患者数(新規、再来を含む)をご記入の上、ご返送くださいますようお願い申し上げます。なお、該当患者がない場合も、患者数推計のために「1.なし」に○をつけ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。

該当患者ありの場合には、後日個人票を送らせていただきますのであわせてご協力くださいますようお願い申し上げます。

この件につきましてご不明の点がございましたら下記までお問い合わせください。また、本状と行き違いにご回答をいただいている場合には、失礼をお許しください。何卒、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

全国疫学調査事務局：〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65

名古屋大学医学部予防医学教室 気付

特定疾患の疫学に関する研究班

TEL 052-744-2132

FAX 052-744-2971

随束事項に関する問い合わせ：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

鳥根医科大学脳神経外科

森竹 浩三 (難治性水頭症調査研究班疫学調査担当)

TEL 0853-20-2245

FAX 0853-21-8954

厚生科学研究特定疾患対策研究事業
特定疾患の疫学に関する研究班
平成 11 年度研究業績集

2000 年 3 月 31 日発行

主任研究者 稲葉 裕
事務局 〒 113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1
順天堂大学医学部衛生学教室
担当者 黒沢美智子、岩佐真佐子
電話: 03-5802-1047 FAX: 03-3812-1026